

●●暮らしの広場●●



■大腸がん編

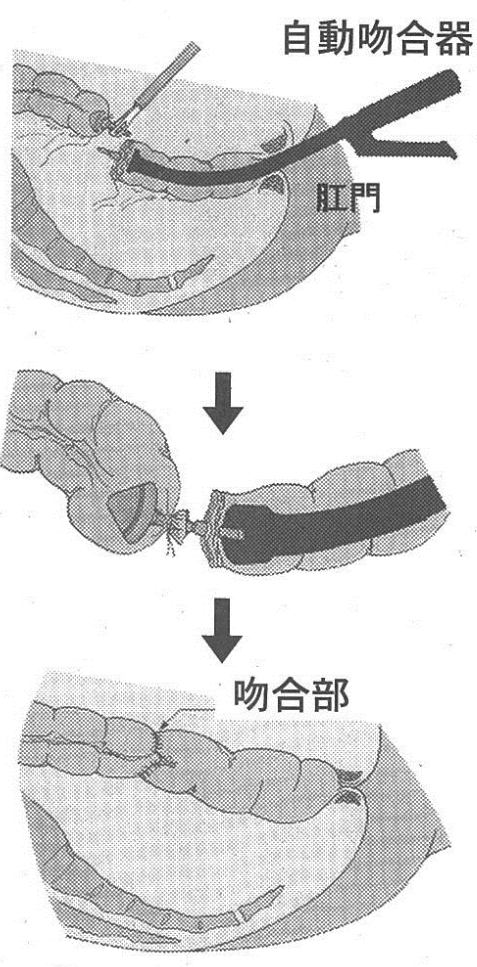
克服へ [36] 工藤 明敏



直腸がん

直腸の周囲には、ぼうこうの機能や性機能(勃起・射精)に関わる神経があります。浸潤がなければ、その神経を温存する手術が選択されます。もしがんが小腸や膀胱・子宮・膣・前立腺などに浸潤していれば、がんと共に切除します。

人工肛門回避へ手術工夫



自動吻合器を用いた直腸の吻合

を作ることができます。ただ、早期の直腸がんでは、肛門を広げて肛門からがんを切除する手術があります。この場合は、がん周囲のリンパ節をがんのある部分と同時に取り除くリンパ節郭清を行うことができません。

また、うつぶせの状態でおしりの上方にメスを入れて、仙骨の横から直腸に到達する手術もあります。この場合は、がん近くのリンパ節郭清だけ

は行うことが可能で、人工肛門は作らなくてもよい手術です。手術器具にも改良が加えられ、器械を用いることでより肛門近くで直腸をつなぐ吻合が可能になりました(図)。しかし、無理をして肛門付近で吻合すると、肛門のしまりが悪く、便秘がなく下痢便が漏れたりすることがあります。がんを取りきるために、や

むなく直腸周囲の神経が切除された場合、排尿障害(尿意が鈍くなったり、排尿してもぼうこうに尿が残る)や、性機能障害(男性では勃起障害・射精障害、女性は膣の温潤度が低下)が起こったりすることもあります。切除範囲を拡げること、機能を温存することは相反することですが、がんの部位と進行度により選択する手術は変わってきます。

①45歳より若く発生する②右側結腸に多い③子宮体がんや胃がん・尿路系のがんなど大腸以外のがんも発生する特徴があります。家族にこのような傾向がある方は、若い時から毎年大腸内視鏡検査が必要です。

そのほか大腸に100個以上のポリープが発生する家族性大腸腺腫症という病気もあり、これも優性遺伝します。このポリープから大腸がんが発生するため、手術(大腸全摘術)を20歳前後で行います。(阿知須共立病院診療部長、外科部長)

第2火曜日に掲載